

# 1月・2月の管理ポイント

 ホームページアドレス  
<http://www.tomo-green.com/>

第115号



明けましておめでとうございます。

去年は、抗ストレス剤『レボ』、シアミド系殺虫剤『スティンガーフロアブル』をはじめ、弊社推進商品を多くのゴルフ場の皆様に、ご利用頂きまして、誠にありがとうございました。

今年も変わらぬご支持を頂けますよう社員一同頑張っていきたいと思えます。

今月号は、2012年のスタートですので、春先からのレボの使用方法について紹介させていただきます。



## 春先(3~5月)

春の水管理が、芝生の根をしっかりと伸ばすポイントです!!

レボは**土壌粒子の表面を極端に薄い膜で覆います**ので、土壌中の空隙率がアップし、表層の過湿を防ぎます。

この効果が、**グリーンの表層を少し乾燥気味にし、根に軽いストレスを与えるため、根の伸長活動を活発にさせます。**

定期処理することによって、根が下に伸びやすい環境を整えてやり、夏が来るまでにしっかりとした根域が形成できるように管理していきましょう。

4月よりベントの本格的な生育最盛期になります。レボ+光合成細菌を定期処理することで土壌表層の通気性を確保し、昨年末から蓄積されてきた悪臭物質を減らしていきましょう。また地温の上昇に伴い、土着菌の活性も上がって行きます。

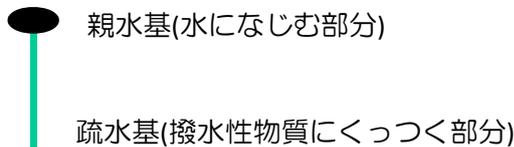
最初に土着菌の勢いを付けさせるために、動物性アミノ酸たっぷりのマリンパワーを処理して、土壌を動かしておきましょう。

使用量：レボ	2ml/m <sup>2</sup>	散布水量：200ml~1L/m <sup>2</sup>	散布回数：1ヶ月に1回
光合成細菌	1~2ml/m <sup>2</sup>	散布水量：1L/m <sup>2</sup>	散布回数：1ヶ月に1~2回
マリンパワー	2ml/m <sup>2</sup>	散布水量：1L/m <sup>2</sup>	散布回数：1ヶ月に1回

# 浸透剤のタイプは？

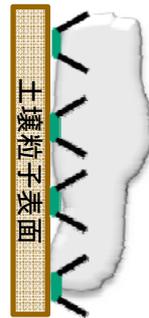
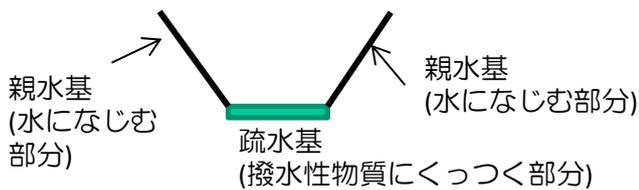
浸透剤のタイプは色々ありますが、一般的には、分子構造の配列によって効果は違います。よく縦浸透、横浸透という言葉も耳にしますが、基本的にはどんな浸透剤を使っても水は土壌中で縦にも横にも浸透しますので、適正とは言えません。今回は、弊社商品を例に、簡単に紹介します。

## アクアグロータイプ



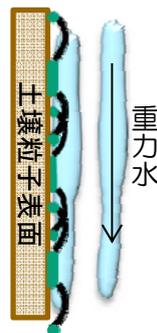
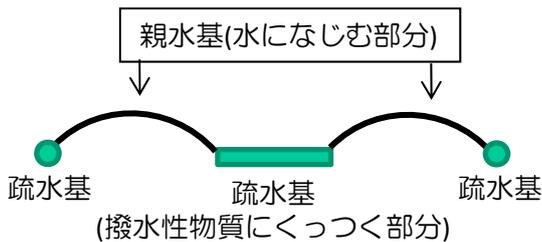
古いタイプの浸透剤。1本の親水基なので水を捕まえる力は弱く、残効が短い。しかし浸透力は強いので、肥料や農薬とタンクミックスして土壌中に成分を行き渡らせるのに適している。

## プライマーセレクトタイプ



一般的なタイプの浸透剤。2本の親水基なので水を捕まえる力は強く、残効は長い。土壌中の水分を均一に維持し処理層を形成させる(土壌の水分コントロールに適している)。

## レボタイプ



特殊なタイプの浸透剤。2本の親水基の横にさらに疎水基のアンカーが付いており、土壌粒子全体を薄くコーティングする。土壌中の水分を均一に維持し、処理層を形成させるが、**プライマーセレクトに比べ余分な土壌水分が重力水として下方に移動する。**

夏の乾燥害は冬の低温乾燥が影響している場合もあります

最近、梅雨明け後から浸透剤を処理しても夏場にドライスポットが発生してしまうケースがあります。さかのぼって状況を確認すると、このゴルフ場では、冬場の低温乾燥(強風も含む)が激しくて、春先に一度強烈な乾燥害が生じていました。軽度のドライスポットであれば、浸透剤を処理して散水を繰り返せば解消出来ますが、**重度のドライスポットの場合、芝の生育期の5月、6月を挟むと一時的にグリーンが改善されたように見えますが、実はまだ撥水性土壌が残っています。**春にグリーンでドライスポットが生じてしまったゴルフ場では、梅雨前にコンディションが良くなっても油断せずに水管理を行って頂ければと思います。